使った食品加工研修についても、約7割の農家が実践を続けています。

◎ため池の採掘

一方で、特に乾季の水不足により、家庭菜園などを実践したくても、できない農家がまだ多くいることが分かりました。このような課題に対して、水へのアクセスを改善する支援を行っていくことを決め、2018年度は、特に水が不足している村で、1箇所のため池（横15m、縦25m、深さ5m）掘削を行いました。このため池は周辺約15世帯が共同で使える水源として、今後、農家の家庭菜園の実践を支えていきます。

◎作物販売のサポート

既にJVCの活動を通して自給を達成した農家からは、「販売に挑戦したい」という声が聞かれるようになりました。これを受けて、車で1時間程の距離にあるシェムリアップの街での飲食店・小売店との提携の可能性を追究し始めました。有志の農家とともにシェムリアップに視察に行き、売れる作物の種類、規格や包装、発送、納品まで、流通に関して学ぶ機会を設けました。2019年2月からは、JVCが運営する試験農場で、シェムリアップにある飲食店で使われるハーブ栽培に取り組み始めました。生産から流通まで一貫したプロセスを整理して、今後、対象地域の農家に普及していくことを計画しています。

◎資料・情報センターの移管

1994年からプノンペンで人材育成のために開いていた資料･情報センター（TRC）の蔵書約7,000冊を、2019年2月にカンボジア王立農業大学に移管しました。農業に関わる貴重な資料の数々が、これからのカンボジアを担う若者に有効利用され、今後のカンボジアの発展に役立つことが期待されます。

ため池の周囲は、近隣住民の呼びかけで自主的に動物避けの柵が設置されました

有志の農家とシェムリアップに視察へ。街で売られているものに興味津々の様子

2019年2月27日、資料・情報センター（TRC）移管式典

活動地からの声

ポワン・チョムノーさん
30歳

週に一度、JVCのフォローアップを受けながら、コリアンダーなどの栽培に挑戦している

JVCの研修で家庭菜園を始め、家で食べるものを収穫できるようになりました。先日、JVCとともにシェムリアップの街を視察しましたが、街で売られている野菜の種類やパッケージなどを初めて見て、大変勉強になりました。この視察で、シェムリアップにある飲食店がハーブ類を買いたいと言っていることを知り、挑戦してみたいと思い、植え方をJVCに研修してもらいました。

私は夫と離婚していて子どもも小さく、家には高齢の両親がいます。外で働くことが難しいので、自宅にいながら収入を得られる手段を知れるのは助かりますし、作物がもしも外に売れるのなら、とても嬉しい発見です。困難もあると思いますが、色々とトライしていきたいです。